

1 基本情報	
施設名又はグループ名	指定管理者名及び団体概要
横網町公園	(指定管理者名) 公益財団法人東京都慰霊協会 (団体の概要)
指定期間	設立年月日 昭和22年3月29日 事業 (1) 慰霊法要の執行と、慰霊堂及び公園施設の管理運営 (2) 震災・戦災の教訓の継承と防災意識の普及啓発
令和3年4月1日から8年3月31日まで5年間	

2 施設名  
都立横網町公園

4 管理運営の概要

①横網町公園の存在意義、「慰霊と伝承の公園」の機能を追求した。きめ細かな植栽管理を基本に、命を尊ぶために欠かせない静謐な空間の創出により公園利用の向上を図る一方、関東大震災100年を機に復興記念館の展示リニューアルを実施した。新たに映像展示を加えるなど、これまで以上の幅広い層に対し、震災、戦災の歴史を風化させない伝承機能向上の展示となった。リニューアルの方針、方法に関しては、東京都に報告し指示を仰いだ。関東大震災100年に関連するマスコミ等からの問合せにはその意図を汲み取り丁寧に対応した。さらに100年後のレガシーとして残すべき収蔵資料の活用では、「震災死亡者調査表」約3万数千件のデータ化及び公開を行った。これらの取り組みにより、「広くかつ深く」公園の存在意義を高めることができた。

②公平で、安全・安心な公園を目指した。9月1日に行われた占用慰霊集会は多くの参加者があったが適切に対応し、一般来園者への影響を最小限に抑えられた。一方、園路・広場・砂場等の日々の清掃や遊具の日々点検、専門点検など、地道な取り組みで安全・安心な公園利用の確保に努め、公園利用者から好評を得た。

③慰霊協会独自の、出版、イベントなど「関東大震災100年事業」と連携を図り、横網町公園の魅力向上と利用促進に資する自主事業を展開した。恒例の「首都防災ウィーク」、復興記念館での映像展示用のソフト、動画の制作・導入、園外の震災・戦災の爪痕や記憶の残る土地を巡る「ガイドツアー」、家族連れをターゲットにし、東京臨海広域防災公園と共同の「ぼうさいツアー」を実施し、いずれも好評を博した。

④新型コロナウイルス感染拡大前の状況に戻り、予定していた都民参加型イベントは、天候要素でやむを得ないもの以外すべて実施した。

⑤施工監理の徹底、造作と展示の綿密な調整により、計画通り、9月1日、関東大震災100年目の日に復興記念館展示リニューアルオープンができた。

⑥施設の老朽化、収蔵資料の開示などについて、課題は東京都と情報共有し、緊密な連携のもと適切に対応した。

⑦収蔵物修復委託、防犯カメラ設置工事など東京都発注事業や、都許可による収蔵物の他館貸出に際して、利用調整や適切案内などの来館者対応に全面協力した。

5 管理状況（維持管理）

1. 「植物管理」 枯枝・枯損木の処理を発見次第行い、安全確保を最優先に対応するとともに植物の特性に応じた剪定・刈込み等により年間を通じて健全で粗放感のない緑景観の創出に努めた。公園外周部の樹木の剪定・伐採を計画的に行い、市街地の公園にふさわしい樹林地の健全育成を図った。この結果、「利用者アンケート」では、高い評価が得られた。

2. 「施設管理」 遊具、水飲み、便所等毎日の目視点検を実施し、不良箇所の早期発見と対応を行った。

3. 「設備保守」 慰霊堂の空調設備の適切な運転を継続した。また、復興記念館消火栓をはじめとする防災施設やエレベーター、高圧受電設備に関して、専門業者による保守点検、定期的動作確認を実施した。

4. 「補修修繕」 公園利用者の視点に立ち、水たまり対策として排水施設の改修などを行うとともに、計画的なベンチの座板取り換え、園路段差解消を実施した。日本庭園池は流入土砂などにより水深が浅くなっていたので、浚渫を実施した。木柵・看板等不具合箇所については直営職員で適時に対応した。

5. 「環境保全」 園内廃棄物のきめ細かい収集と適切な処理を通年行い慰霊の場にふさわしい環境を維持するとともに、夜間巡回や日頃の声かけ等により新たなホームレスの流入を防いだ。ハトの餌やりについては、発見次第注意し理解を得ている。

6. 分煙の徹底のため、事前の十分な告知を行ったうえ、園内に2か所あった吸い殻入れを1か所に集約し、園内分煙を推進した。

6 利用者アンケート結果

実施方法:職員による直接配布、回収

施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応
横網町公園	4.6	4.8	4.1	4.3	4.5

7 入園者数の状況（単位：人）

施設名	当該年度	分析
横網町公園	292,006	公園利用者、復興記念館来館者とも、コロナ後最高となった。団体利用の回復、復興記念館リニューアルが寄与していると考えられる。 公園利用者 復興記念館来館者 一時占用件数 令和2年度 246,684 13,919 28 令和3年度 270,392 19,488 32 令和4年度 237,166 23,638 43 令和5年度 280,758 38,902 51
合計	292,006	

## ○施設別事業報告書

施設名 横網町公園

指定管理者名 公益財団法人東京都慰霊協会

**1 公園の意義と存在を高める**

「震災・戦災のメモリアルパークとしての社会的価値の向上(横網町公園マネジメントプラン)」  
2023年、関東大震災100年を機に、この主旨を最大限発現するよう当財団が持つすべてのノウハウを結集し、管理運営を行った。

**(1) 命を尊ぶ静謐な空間づくり**

慰霊堂内での季節の草花展示を継続(年間18種)するとともに、日本庭園区域での伝統的な季節感の醸成(マツのコモ巻き、南部式、北部式雪吊りなど)に取り組み、落ち着いた和の空間の創出と伝統技法の継承を図った。一方、庭園池の浚渫を行い、水質保全にも努めた。園内花木の剪定では、花芽を残す方法・時期で実施し、多くの開花があった。

**(2) 季節感や特徴ある催しの実施**

コロナ5類移行に合わせ、参加型の催しを全面復活させた。コロナ禍でのノウハウを活かし、例えば「防災ツアー」の水上バス乗車時は、グループごとの指定席方式(従来は自由席)で相席を避けるなど、参加者の安心・安全を優先した。このように実施した催しはどれも大好評であった。

**(3) 震災・戦災の歴史を風化させない**

ア復興記念館展示リニューアル(自主事業と指定管理事業の連携の成果)

2015年以来となる、展示内容のリニューアルを行った。自主事業で作成したコンテンツ(震災写真マップ、児童作文朗読、復興プロジェクション、動画2本)をディスプレイ展示するとともに、復興展示の充実を中心に抜本的展示改修を行い、マスコミ等を通じて情報発信に努めた結果、来館者が画期的に増加した。(R4年度:23,683人→38,902人:1.6倍)

イ復興記念館での特別展実施(博物館としての確固たる矜持)

視覚的でわかり易い展示で来館者の興味を引き付ける一方で、博物館として独自の調査成果を掘り下げて展示することも重要である。令和5年度は例年より多い3回の特別展を開催した。①春季特別展(R5年5月～8月)「同潤会がめざした理想的な住まいと住環境」では、神奈川大学建築学部と協働した研究成果を活用した。②秋季特別展(R5年8月～11月)は、前年度、都が修復した震災直後の子どもたちの作文集の分析を基に「子どもたちの関東大震災(2023年版)」を、③特別展(R5年11月～R6年3月)では、「震災死亡者調査表」のデータ化の成果を基にした「関東大震災の被災者実態について」を開催し、いずれもマスコミの取材を受け、社会的に新たな知見を広めることに貢献できた。

ウ取材等への適切かつ丁寧な対応による発信(風化防止へのパブリシティ活用)

貴重な歴史資料を所蔵するため、研究や取材に関しては丁寧な対応を心掛けている。関東大震災100年を機に、収蔵品画像の貸出(無料)や問い合わせ取材が大幅に増大した(画像貸出:R4年度78件→285件、)取材報告:R4年度4件→13件)。いずれにも取材・制作意図を汲んで丁寧に対応した結果、おおむね好意的で良質なパブリシティが発揮できた。この成果として独自制作の動画が世に知られ、文芸賞を受賞した(12月)。

エ職員による団体利用者ガイド

従来より実施している団体利用者向けのガイド(無料)も、横網町公園の意義を理解してもらう地道で大切な取り組みである。独特の事情で、職員自らが通常業務の間に責任をもって対応し、好評とともに、お礼をいただくことも多くあった。

**2 公正で、安全・安心な公園づくり**

9月1日、園内で行われた複数の慰霊集会においては、多くの参加者があったが適切に対応し、一般来園者には大きな影響はなかった。

一方、基本的管理においては、日々の清掃、毎週の園路清掃、砂場清掃等を継続して実施し、利用者の好評を得ている。その結果、近隣保育園に連日利用されており、その中の一園の園児からは今年もお礼の言葉をもらった。(両国子育て広場、11月20日)

**3 魅力向上と利用促進のための自主事業**

ア財源確保(自主事業の財源は多くの方の浄財で)

これまでの当協会の親身な接客対応でつちかった「信頼」を背景に特別寄進を呼びかけ、関東大震災100年事業の財源確保を果たし(令和5年12月まで実施)、復興記念館の新展示コンテンツを制作した。

イ首都防災ウィーク(NPO等とのコラボで、多彩に充実)

令和5年で11回目となった「首都防災ウィーク」は、さらに内容を充実させ、期間も長くした。参加型の「竹明かり製作」に始まり、講演会には第一人者の専門家を呼び充実した。園内イベントでは、三陸支援のコンセプトで、炭火焼きサンマ無料配布を4年ぶりに復活させ、大好評であった。

ウ新規企画(横網町公園ならではの心に残る企画にチャレンジ)

関東大震災100年に合わせ、新作映画の無料試写会(8月25日、「カメラを持った男たち」)、鎮魂の音楽コンサート(10月29日、出演:UA、寺尾紗穂、無料)を実施し、多くの来場者があった。

1(1) 命を尊ぶ静謐な空間づくり



4月シラン



11月ハゼ



水を抜かずにいった浚渫工事

1(2) 季節感や特徴ある催しの実施



4年ぶりに再開した参加型イベ



ぼうさいツアー船内



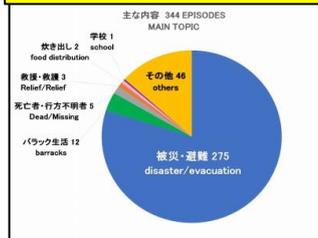
大盛況のどんぐり祭り工作教室

1(3)イ春季特別展  
「同潤会がめざした～」



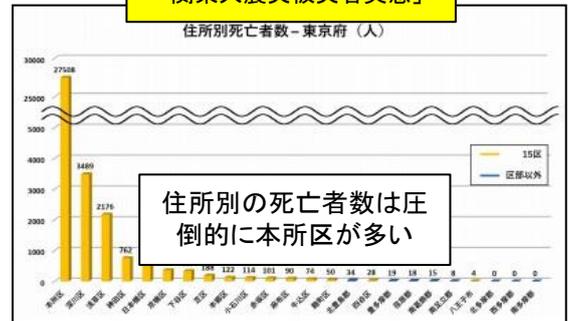
新たに製作した模型

1(3)イ秋季特別展  
「子供たちの関東大震災」



震災半年後に書かれ

1(3)イ特別展  
「関東大震災被災者実態」



1(3)ウ文芸賞の受賞盾



蔵谷川波文芸賞

2 公平で安心安全な公園



9月1日、16時17分朝鮮人犠牲者追悼碑

2 公平で安心安全な公園



保育園児からお礼のメダルを受け取る職員

3 魅力向上と利用促進(自主事業)



大型ディスプレイを使用した展示  
新コンテンツ(震災写真マップ)



首都防災ウィーク、園内展示  
には災害用大型テントも



鎮魂コンサート「隅田川回向」出演者のUA

## 収支状況

3 収支(単位:千円)			
項目	令和5年度	令和4年度	令和3年度
収入 計	72,764,000	69,977,000	68,827,000
内 指定管理料	72,764,000	69,977,000	68,827,000
取 利用料金	0	0	0
支出 計	72,626,963	69,799,588	68,461,582
収支差	137,037	177,412	365,418